

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童デイサービスやよいのあかり		
○保護者評価実施期間	令和6年12月10日		～ 令和6年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和7年1月15日		～ 令和7年1月25日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年1月31日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	建物や設備はバリアフリー仕様であり、集団活動のための車いす・バギーのスペースが確保できている。	指導室に畳の小上がりスペースを作り、自立歩行する利用者や車いす・バギーで活動する利用者と臥床者を安全上分けている。	個別支援のためのスペースが不足しているため、机と椅子を用意したり、衝立等を活用して小スペースを確保するように取り組む。
2	介護度の高い利用者、医ケアの必要な利用者に対応できるスキルを持った職員がいる。	看護師・福祉専門職員等による情報提供や研修の機会を持ち、共通理解のもとで利用者を支援する。	外部研修等へ参加しやすい環境づくり、資格取得支援等職員全体のスキルアップデートを図る。
3	利用者家族等との関係性が良好であり、情報共有がなされておりニーズに応じたきめ細かな対応できる。	連絡ノートや送迎時のやり取りなどを活用し、職員誰にでも相談できる体制作りをしている。	職員誰に相談しても迅速かつ確実に対応できるように、職員間で情報共有できる時間をできるだけ多く設ける。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障害特性、重症度、医ケアの対応量等が利用者毎に大きく異なるため、標準化したアセスメントツールが使えない。	個別支援計画では個性の高い支援計画に基づいて評価改善が行われ、支援の柱としてのプログラムと必ずしも一致していない。	支援プログラムの精査と更新等により、標準化されたアセスメントツールをベースに利用者の多様な特性に対応できるものを考えたい。
2	重症度、障害特性等にきめ細かく対応するため、職員配置の充実を図ってきたが、現状は基準を満たすものの職員数に余裕がない。	求人募集するも最低賃金程度の人件費ではこちらが求める人材が集まらない。収益性の高い事業ではないため、物価、最低賃金に見合った人件費の上昇が難しい。	補助金の申請や運営内容、運営体制の見直し等を行い、人件費や人材育成に係る費用を充実させる。
3	利用者の外部交流、保護者同士の交流や保護者等を対象とした研修等を設けることが難しい状況が続いている。	感染症の流行でそれまで実施していた外部交流の機会がなくなったり、保護者同士の交流・研修等の機会は作れなくなった。	オンライン等を活用した交流の機会の提供など、ICTを活用したり、感染対策を徹底して対面での交流が実施できるようにしていく。